

愛労連結成10周年記念ベトナム・ツアー

身の丈の国際交流、北から南・駆け巡りの旅

フエの水害見舞、ホーチミン市労働組合と交流

ハノイ・フエ・ホーチミン



1999年12月9日～14日

Viet Nam/HA NOI・HUE・HO CHI MINH

詩集「脈々といのちある組合よ」香村克己より <ぼくのベトナム(1975. 5. 8)>

4月30日につづく5月1日。
1975年のこの日のことを、
黙っていることが、どうしてできるものか。

小学校の1年生の子どもたちにも
この大きなできごとを、
それなりに話是可以る。

——きょうはメーデー。世界中で
働いている人のお祝いの日だよ。
「ぼくのお父さんも行ったよ」
と、ひとりのおとこの子。
——ところで、みんなどんな国の名前を
知っているかな。
「かんこく」「ちゅうごく」
やはり身近な国からでてくる。
「イギリス」「インド」「オーストラリヤ」
「アメリカ」「ドイツ」「スペイン」
「ほんこん」
ひらがなで黒板に書く。
「ハワイ」「フランス」「サイゴン」
ついに出了『サイゴン』

——『サイゴン』って町の名前だよ。
どこの国の町だろう。
「……………」
——ベトナムっていう国知ってるかい。
「知っている」「知っている」
「よくこの頃ヘリコプターの出てくる国」
——そうだ。アメリカが、ヘリコプターで
みんな逃げ出したところだよ。
赤字で、ベトナムと黒板に書く。
——ベトナムって国があること、おぼえてお
いてね。

ベトナムは、決して遠い国ではなかった。
日本のベトナム。
ぼくのベトナムだった。

いまはお嫁にいった教え子たちに、
ベトナムの記事がのっていた
『日本の子ども』という雑誌を見せたこと。
キムドン話やその映画。
『あの人の生きたように』グエン・バンチョイ
の妻の手記。

10・21小牧基地包圍集会で、
川上貫一は特攻で死んだ若者の話をした。
京都での原水禁世界大会の時、
トンキン湾事件のニュースをきいた。
あれから何回かのベトナム募金、
いつもぼくは背広に、水牛のバッヂをつけていた。

10年前の交通事故の時も、
ベトナムの戦士に負けまいと
連日、連夜、活動していたが、
ついに、ムチウチ症悪化で、
京都の待鳳診療所を新聞で知って入院。
そこで、みんなでベトナムへ贈ったレントゲン車。
ベトナム歌舞団の娘さんたちとも出逢った。

ベトナムは、遠い国の話ではなかった。
日本のベトナム。
ぼくのベトナムだった。

ホーチミンの遺訓をを受け継ぎ、
ジャングルの中で、都市のどまん中で、
コンソル島で闘い、戦いつづけた。
その勇士たちは、いま民衆に包まれている。
あの水牛に水浴びさせていた少年たち、
高射砲に花を飾っていた娘たち、
どうしていることだろう。

第2次大戦で日本国土への投下爆弾、14万トン。
ベトナムへは750万トン。
ベトナムのたたかいは、終わってはいない。
ベトナムのことを、
日本の子どもたちにもっと話してやらなくては。
ダーちゃんのこと。キムドンのこと。
バン・チョイのことを。

1年生には1年生の話を！
6年生には6年生の話を！
中学生には中学生にあった話を！
若者たちには若者の話を！

ベトナムは、遠い国ではなかった。
日本のベトナム。
ぼくのベトナムだった。
4月30日につづく5月1日。
1975年のこの日のことを、
ベトナムの仲間の勝利を、
黙っていることが、どうしてできるものか。

「ぼくのベトナム」をこの目で見た

香村 克己（岡崎年金者組合）

30代から40代にかけてベトナム人民の戦いに連帯して運動してきたぼくは、初めての海外旅行にベトナムを選びました。「いい仲間 いい旅」が実感できた6日間でした。

あのように国を挙げて独立と民族統一のために戦ってきたベトナムですが、その戦争の跡は、表通りには殆ど残っていませんでした。ハノイやホーチミン市や、農村でも。国の統一と独立を果たして、いまは戦争によって壊され、遅れた国の経済や国づくりに全力を出しているように思えました。

フエ空港が水害で使えずダナン空港に降りて、バスで国道1号線をフエへ。更にホーチミンルートを迂回してのベン・ハイ川までのバスの旅は、250^{km}はあったでしょうか。道の舗装の様子、ハイ・ヴァン峠越えの時に見た水害道路の復旧作業、日本でいえば50年代から60年代のようでしたが、その中でも飴売りのおじさんの笑顔や、沿道のベトナムの国旗——これは地方選挙を祝つてのようでしたが、ゆとりと集中力の2つを感じました。

入国手続きをする若い検査官の許可する時の笑顔にも、それを感じました。全体的に明るい一貧しいけれども未来に希望をもっている意気込みを感じました。

戦争の跡をはっきり見たのは、ハノイの軍事博物館や、ホーチミンルート近くの1万4千名もの墓地、旧サイゴンの戦争証跡博物館でした。案内役のハンさんに代わってハノイを案内してくれたラクさんが「私は小学生から大学まで戦争でした」「戦争は怖いです」「目や耳がない心配で子ども産めなかった」と言われたことばは、心に突き刺さりました。ベトナム戦争世代の声を代弁していると思いました。墓地の碑に“祖国はあなたたちの思いを忘れない”と刻んでであると聞き、日本の忠魂碑と逆だと思いました。



フエの水害被災者に救援物資を渡す香村さん

ホーおじさんに対する尊敬と親しさが国中に溢れていました。木造・高床式の2階の2部屋で暮らしていたホーチミン主席と、あの贅をつくした南ベトナム大統領宮殿—現在の統一会堂は、対照的でした。民衆のためのリーダーか、民衆を抑える者かを示しています。

フエでの水害地の見舞では、現地の人たちの慰問品に対する切実な要求とともに、分配についての配慮、「代表」の役割、「現金」の扱いの注意等を学びました。日本においても同じだろうと思いました。

子どもたちが水害地の中でも、10人ぐらいつ組に分かれて片足角力をしていました。日本では失われた子どもの世界を見ました。

ベトナムの地で、高度に発達した資本主義社会の日本のことを考えました。日本に帰り、あの時の“目”を忘れないでと思っています。

「もう一度訪ねたい」感動のベトナム

宇野 廣子

社会人になったばかりの私に新婦人の先輩から「ベトナム戦争反対の1円カンパを出しているの。貴女もどお」と言われた時からベトナムは、私にとって特別な国になった。悲惨な死体の山、銃でへりを撃ち落とす衝撃の映像と共に少女達の笑顔があった。死を前にして兵士と共に明るく「どうしてこんな笑顔がでるのだろうか」眩しい思いとともに、美しいメコンデルタの風景も魅力的では非行って見たかった。

しかし、ハノイに着いてバイクと自転車が無秩序に走るさま、その喧噪、ものを売りつけようと群がる子供達にまぎびっくりしてしまった。食事をしていても私達は王様で、私は大金持ちのマダムです。レストランの門の外は、群がるベトナムの人達でまるで日本の戦後直後のように思った。

最初ハノイの夜は、眠れなかった。田舎育ちでのんびりしている私は、この喧噪に疲れて日本に帰れるだろうかと急に不安になった。でも、同室の松野さんはとても楽しい人で私達はすぐ親しくなり、まもなく旅は、とても楽しいものになった。

ホーチミンでホテルの前の公園に松野さんと散歩にでたが、私は道路がこわくて渡れない。同じように道路を渡ろうとしていた少女に「一緒に渡ろう」と言って腕をとった。彼女は、にっこり笑って私と腕を組んでくれた。帰りも見知らぬ少女に声をかけると腕を組んでくれて3人でスクラムを組むように道路をわたった。ベトナムの女性は、眼がとてもきれい。にっこり笑った笑顔は、とてもきれいだ。

この旅の最大の収穫は、フエで災害にあった人達に見舞い品を直接手渡しするという体験ができたことだ。最初のテント村の人達は、家も土地も失って途方に暮れた様子で、見舞品を受けとっても厳しい表情がきえなかったが、次に村の中のお寺や集会場に避難していた人々は、被災者名簿もきちんとあり子供達もとても元気で見舞品を受け取って喜こんでくれた様子だった。

最後に道路の脇の空き地に車が止まった時、私は車のなかに残っていたが、いきなり沢山の人が集まり車の中にまで乗り込もうとして大騒ぎになった。もらった人、もらわない人で騒ぎになった様子だが難しい局面を、みせつけられた思いがした。

日本に帰って映像の世紀「ベトナム戦争」を見た。和解のためにフランスに行って演説する若きホーチミンがいた。彼は、ベトナム戦争の勝利を確信してその通りになったが、いまのベトナムの様子をなんとみるだろう。私は、何年か後にもう一度再生したベトナムを訪れることができるだろうか？

最後に、連れていってくださった愛労連の皆さん、本当にありがとうございました。



高床式の二階屋、ホーチミン主席の家（美質の大統領官邸）の前に広がる池の畔で。左側が宇野さん。となりは石村さん。

愛労連結成10周年記念「ベトナム交流の旅」に参加して

小泉 和夫（静岡県評・西部地区労連）

このたび愛労連結成10周年記念「ベトナム交流の旅」に参加しました。

私にとってベトナムは、機会があれば一度行ってみたい希望の国でした。愛労連のみなさんのご好意でベトナム・ツアーに参加できたことに感謝しています。

参加者は、愛労連の伊豆原（副議長）団長以下15名でした。

代表団は、名古屋空港より香港国際空港経由で、首都ハノイから、フエ、ホーチミン市と6日間の旅です。

最初に訪れた首都ハノイでは、ベトナムの名物だそうです、バイクと自転車の洪水には度肝をぬかされました。バイクもどこから湧いてくるのか、よく交通事故がないと日本人の私たちは感心することしきり。

ベトナムの指導者・ホーチミン大統領が眠るホーチミン廟も訪れ、念願の記念写真もとり、旅の記念もバッチリ記録し、大いに満足しています。

中部の古都フエは、昨年11月始めの水害は「百年に一度」とも言われる大洪水に襲われ、大変被害が大きかった。タンナン地区は、エビの養殖場だそうです。

その64家族が被害にあい、6人の死者をだしたそうです。

愛労連が多額の義援金を用意していたので関係者と相談して、代表団の一行は、直接フエで物資を調達して、現地の被害にあわれた方々に代表団から手渡しで物資をとどけ、現地の方から大変よろこばれました。また、家族や子供たちとも仲よくなり、代表団と記念写真も一緒に。



朝の散歩の時、ハノイホテル前のザン・ポー湖のほとりで、（早起きの）証拠写真をパチリ。真ん中で写っているのが小泉さん。くたびれて座っているのは平田さん。一番若々しいのが伊藤さん。

後半は、ホーチミン市（旧サイゴン）へ

ベトナム総同盟との交流や、ベントアン市場のにぎわいと活気に圧倒されました。

オートバイもハノイの多さにびっくりしましたが、ホーチミン市ではハノイの数倍ものオートバイの洪水、その中であって若い女性がアオザイを着て颯爽と走っている姿も見えました。

大統領官邸、戦争証跡博物館などへも訪れ、25年前の当時のことが胸にこみ上げてきて、ベトナム人民のたたかいがいかに偉大なたたかいであったか。

平和のためには、たたかわなければと平和の尊さを再認識した旅でした。

まだまだ見たい聞きたいことが一杯

土井 照雄（名古屋市港区）

初めての海外旅行で不安が一杯あったが、大きな収穫もあった。まだまだ見たい聞きたいことが一杯である。

何が豊かで、何が貧しいかを知るよい機会にもなった。日本の子供たちが学校の価値を認めず学校へいきたがらない、大学を卒業してもすぐ働くべきと考えていない学生が50%を超している。私たちの年代では考えられない、休まず学校に行く、卒業したら働き親を楽にさせたい。マイホームを持ち電化製品を揃える。そんな夢や目標は何処へいったのか。ベトナムへ行って、日本人が忘れてしまった豊かさが少し見えた気がした。

新鮮で豊かな野菜等を食している、民族の歴史や文化を大事にしている、多分家族も。そんなものは30年前の遅れた日本にあった。しかし、物質文明とともに葬り幹り去っていいものなのか、ベトナム人民のこれからの選択に興味津々である。

朝早くから農畜産物を山積みしてハノイへ向かうバイクの波、それを市場や路肩で売る、実に豊富で種類も多い、黒山の人々で賑わっている、その小さな1つ1つの店を取り仕切っているのは女性ばかり、見ていても飽きない。道路はバイクの波・騒音の波が寄せては返す。1台のバイクに3人、5人、一家全員が乗っていて楽しくも見えた。

「ベトナム人はどんな機械の故障でも集団でごそごそやっているうちに直してしまう」と船員仲間の声をよく聞いていた。それはベトナム人民の歴史にあると確信した。

アメリカ、フランス、日本、いつもその時代の最強国家の侵略を打ち破っている。一番長い間戦ったのが中国の歴史に登場する強国であることも歴史博物館等で知った。日本の侵略で200万人が餓死した時の写真も見た。ベトナム人民はいつも、膨大な犠牲をはらい、困難な戦いから独立を守っている。正義感にあふれ勤勉でエネルギーで粘り強い人民の豊かな財産が築かれたのだと私は思う。

家族で露天商をしていた人に日本人の土地ブローカーの名刺を見せられた、しかも、私と同じ名古屋市港区の人である。いろいろ聞いてみたかったが邪魔が入った。子供たちの願いも少しでも知りたかった。もう少し言葉が分かるようになりたい。

参加者の皆さん大変お世話になりました。有難うございました。

高床式のホーチミンさんの住居（居室と執務室のこじんまりとした）をバックに。
前列左側が土井さん。その隣が見崎さん。
後ろが左から、平田さん、伊豆原さん、伊藤さん、勅使河原さん。



驚きと感動のベトナム

石村ひろ江

私にとって初めてのベトナムは、今まで訪ねた国のどこにもない、独特な雰囲気を持つ国でした。情感溢れる古都や雄大な自然、時も、河の流れも、人の気持ちもゆったりしていたのですが、何処に行っても私の頭に焼き付いた、その活気と喧噪に掻き消されてしまい、のんびりと味わうゆとりが持てずに、ただ驚きと、そのエネルギーに圧倒され続けました。

街中の自転車とバイクの多さにびっくりし、その中を1台に2人も3人も乗り、巧みに走り回る人々に驚き、それを避けながらゆっくり進む自動車、慣れているからなのか、誰もが楽しそうに走っているように思えました。貸自転車もありましたが、私にはとてもその流れの中に入っていく勇氣はありません。情けないことに道路を横断することさえできなかったのですから…。道端にポツンと置かれたペットボトルを発見!「何だろう?」と思っていたら、バイクが止まって男性がタバコを吸いながらペットボトルのガソリンを注いでいました。バイク用のスタンドだったのです。

市場では、新鮮で豊富な食材にびっくり、タライの中で魚が泳ぎ、鶏が籠の中でバタバタしながら売られていたのも驚きです。もう少しゆっくり見学しながら買い物をしたり、様々な南国のフルーツを沢山味わってみたかったと思います。夜は何処も薄暗く、それが不便だとは感じませんでしたが、帰国時、名古屋上空から眺めた夜景は、まるでクリスマスのイルミネーションのようでした。夜、世界で最も明るい国は、アメリカと日本なのだそうです。ちょうどその頃日本では、東海村臨界事故があったばかりでしたので、今、一人ひとりが電力節約について真剣に考え、原子力発電への依存を可能な限り縮小できたらと思いました。

ベトナムの歴史は、常に他国からの圧迫、侵略との戦いだったようです。記憶に新しいベトナム戦争については、戦争犯罪博物館でその悲惨さを再確認しました。米軍による様々な虐殺、破壊行為は想像を絶するもので、枯葉剤の影響で生まれた奇形児の写真や、ホルマリン漬けの異常胎児など、21世紀を目前とした今尚、その後遺症を多く残していることに深い悲しみと怒りが込み上げてきました。歴史の波に翻弄されながらも強く生き抜いてきたベトナムの人々、解放後の大きな変貌にもかかわらず、独立と自由を勝ちとった解放戦争の意味、そこでの誇り高い生き方は、絶対忘れてはならないという強い思いが伝わってきます。目覚ましい経済発展と国際舞台への復帰も果たし、加速度的に変化する中で、旅先で出会った子どもたちの無邪気な笑顔や素朴な人々の対応、豊かな自然は変わることはないよう、いつまでも平和でありますようにと願っています。



＜往路・乗り換えの香港国際空港で＞
写真前列左側が石村さん。その隣が松野さん、伊藤さん、吉田さん（旅行社・フジツーリストのおとぼけ添乗員です）。

「人懐っこさ」に溢れる、国造りへのエネルギー

見崎 徳弘

1960年代から70年代に青年時代を過ごした僕には、ベトナムは特別な感情が湧く国のひとつです。愛労連10周年記念のツアーは、僕には2度目のベトナムでしたが、今回は、古都フエの水害見舞いやベトナム労働総同盟のホーチミン市労働組合との交流という特別な企画もあって、数年前、愛高教女性部主催のツアーにかみさんと一緒に参加したときはまた違う興味をもった旅でした。いろんなことを感じましたし考えましたが、2つのことだけ書きます。

まぶしい子どもの笑顔。「懐かしい国」ベトナム

数年前の最初のツアーでも感じましたがベトナムは妙に「懐かしい」国です。ひろがる水田風景。色とりどりの果物や野菜、肉、魚、雑貨を並べた道ばたの朝市。朝も夕も自転車やバイクに3人も4人も乗って道路にあふれる群衆。貧しくとも明るく元気、すてきな笑顔の子どもたち。働き者の女性たち……。戦後の混乱期を脱して高度成長期にさしかかった昭和30年代の日本を思い起こさせるような懐かしい光景でした。

外国の長い侵略に屈せずたたかい抜いてようやく「平和・独立と普通の暮らし」を手に入れたベトナムは、貧しさのなかにも希望と活気があって好きな国です。ハノイやホーチミンの観光地で僕らに土産物売る子どもたちはしつこいほどにつきまってくるし、ベトナムで3番目に大きな都市・ダナンから中部の古都・フエまで数百キロのバス移動の途中で立ち寄った寂しい漁村のバラック建ての飲食店の前にもコインをねだる子どもたちの群がいて（つまり、全国どこにも観光客目当ての土産売りの子がいる感じで）びっくりもしましたが、ほだされていつも物を買う土井さんや香村さんだけでなく、何一つ買わず素っ気ない僕などにも別れ際の笑顔と人なつっこい手振りは公平に向けられて、「群がる・手を振る・笑顔を向ける」のは「損得」づくりの行為ではなく「人懐っこさ」のためだと思いました。日本の町々からこういう人懐っこさが消えてどれくらいいたつのか。ふと、そんなことも思いました。

1954. 7. 20～1975. 4. 31、南北の国境として流れたベン・ハイ川の畔に建つ記念碑前で記念のスナップ。
写真は、左から見崎さん、伊藤さん、ベトナムでの通訳のハンさん、フジ・ツーリストの吉田さん。



建設途上の国、ベトナムの困難と可能性

ベトナムはベルリンの壁やソ連の崩壊以後すっかり流行らなくなった「社会主義国」、「建設途上の社会主義国」ですけれど、今のベトナムの特徴は、侵略者から国を守るための長い戦争で荒れ果てた国土を復興させ、立ち後れた経済力を先進国並みに引き上げるためのいわゆる「ドイモイ政策＝開放経済の推進」にあります。今これはどの程度まですすんでいるのか？ 社会主義

の理想とドイモイ政策との矛盾や調整はどうなっているのか？ 一いくつかの疑問や問題意識をもつての旅でしたが、この点は結局はわからずじまいでした。

ホーチミン市労働組合との交流やバスの中での通訳・ハンさんとの会話では、ベトナムの経済復興がまだまだ大変で、多くの失業者や貧困層を抱えて苦しんでいることがよくわかりました。

「ホーチミンは国勢調査では人口450万ですが実際には700万人。差の250万人は近郊からの流入者で正規の仕事はないはず」「男は建設現場などで1日～半日単位でのバイト仕事を捜して、女は路上で簡単な食べ物や飲料水、菓子・雑貨などを売って日銭を稼いで」「食い詰めると売春や粗悪品の押し売り、ひったくりなども出て」と語ったハンさんの目は忘れられません。ちなみに、ベトナムで極貧層とされるのは都市部では月7万ドン（約7米ドル）、農村では5万ドン以下で暮らしている人たちで、国民の17%を占めるという数字が出ています。

外国企業の進出に伴って賃金格差（外国企業＝月平均70米ドル、公務員＝50米ドル）も開いていますが、今は少々の矛盾に目をつぶっても経済復興優先で、「資金も機械も技術も足りず、国だけでは間に合わない。労働組合としても技術者養成センターをもちたい。どんな機械でも欲しいし日本からも技術者に教えに来てもらいたい」「失業者に技術力をつけて仕事を斡旋するのが第一の課題だ」と労組幹部が語るのを聞いて、この国は労組も統治機構の一環なのだと改めて実感すると同時に、「新しい国づくり」へ向けた意気込みも感じました。

ドイモイ政策を中心とする新たな国づくりの行方は不明ですが、アメリカをもうち破って独立を果たした民衆のエネルギーを信じたい、そんな思いを強くしたツアーでした。



水害被災地・フエでのスナップ／撮影＝勅使河原さん

元気で明るいベトナムの子ども

勅使河原勇（愛知争議団）

子どもたちの元気で明るい振る舞い、ケンケンでぶつかり合う、生き残り戦のようです。水害の被害にあったフエのみなさんに、愛労連からの見舞の品々を渡していたバスのすぐ近くの河原で大勢の子どもたちが遊んでいました。子どもの頃、遊んだような……いま日本でこんな光景に出会うことができるのでしょうか。

そして、新鮮な果物、野菜を山と積んだバイク、食材が毎日毎日、搬入されるベトナム。冷凍設備、流通システムが完備している日本、どちらが“豊か”なのか、ベトナム・ツアーに参加して問い直される思いです。

ベトナムの姿に、使い捨て日本を反省

松野 祥子

愛労連10周年の記念の一環、「ベトナム国際交流企画の旅」に参加し、戦後のベトナムの姿を見学したく、ベトナム行きを決意しました。

ドイモイ政策による建国に燃えるベトナムの人々の姿、労働組合との懇談により、輝く21世紀の実現にむけて歩む私たちに、新しいヒントをと、目的大きい企画を計画したと聞き、あまりのすばらしさに、私のような無知でこの企画に参加して良いのかと、少々とまどいを感じました。

ベトナムの地に降り立ち見学するにつれて、どんどん心がすさんでいきました。特に水害におそわれたフエを見舞った時には、まだまだ開発の遅れがあるにもかかわらず水害にあい、生きるための生活の住民の姿があまりにも哀れで、日本は物があふれ、何でも捨てている実態を反省させられるおもいでした。

戦争博物館を見学した時などは、あまりの悲惨さに目をおおうばかりでした。この資料は、恨み呼び起こすのではなく、「過去を見つめ返そう～ ベトナムの悲劇や数々の教訓を」でなくてはならないと思います。

ベトナム人民にもたらした戦争の後遺症は、あまりにも深く計り知れないものです。わたしたちは、あの悲惨な光景が蘇ることのないよう、またそれが、地球のどんな場所でも繰り返されてはならないものです。

20世紀は、激動の年月です。それをしめくくる21世紀は大いなる安らぎとなるべく努力していきたいと思います。



＜ベトナム初日・夕食会場で＞
ハノイ料理＝レストラン・パラダイスで
伴奏のお姉さんバックに伊豆原さんとパチ
リ。もちろん、前列・右側が松野さん。

生きるたくましさハダで感じた

ー活気あふれる国ベトナムー

伊豆原 直（愛労連副議長／ツアー団長）

ハノイで迎えた初めての朝、早くに4人で外に出た。夕べは、ベトナム民族楽器が奏でる「日本の歌」に聞き惚れ、ベトナム料理とバーバービール（ベトナム製）で夜遅くまで騒いだ。そのせいか朝露の冷気が顔と体に心地よい。

人も食材もあふれる朝市

湖にそって歩くと朝市に出会った。ものすごい食材に驚いた。ハノイの近郊から新鮮な野菜、果物、卵、肉、生きたままの魚介類、豆をはじめ穀類や香辛料などをめいめい持ってきて、そのまま道端で商売だ。それに、オムレツやパンを焼いたり、ベトナムうどんなどその場で食べられる朝食をここで済まして、仕事へ行く人が多いと聞いた。朝から活気があふれ、食料を買い出しに女性がいっぱい。日本ではもう薄れた「生きるたくましさ」をベトナムで見つけたようで、なぜか安心。「それは汚い」というかもしれないが、日本でも観光地の朝市など何処も評判で、ことたいして変わらない。要はその国の大地や地域で採れた新鮮な食材であることが重要なんだろう。「いくら?」「2千ドン=(100ドンが約1円)」焼きたてのパンを買って食べてみた。「うまい!」、少し小ぶりのバナナ1房(10本ぐらい)1万7千ドン。米1キログラムが2千ドンなど、食材は確かに安い。

ベトナムは、日本人に合う国

ハノイもホーチミンも市内はバイクと自転車が優先か?道幅いっぱい。どこから来るのか、昼間から人もいっぱいで、街そのものに活気を感じる。がしかし、ビックリもした。自動車の前はおろか後・横まで、道路は、バイクと自転車の洪水。「事故が起きない」のが不思議で、日本のドライバーは、だんぜん見習うべきである。

ハノイ市は、さすが農業立国を思いおこす。指導者「ホーおじさん」の思想が生き、近郊農業が息づいていることを感じさせる街である。それに比べてみれば、統一されたといえどもホーチミン市は、アメリカ傀儡政権のもとで、「自由主義経済」を1度は経験した労働者の街という感じが強い。いずれにしても、私にとって初めての国・ベトナムの印象は、「日本によく似た日本人にあう国」であった。田畑が多いせいか。

被災地に救援物資届ける

ベトナム3日目、古都フエにむかう。フエは11月2日に大洪水のため、大きな被害を受けた。このため愛労連からは「見舞金」を託されていた。被害状況は思ったより広範囲で、死者も200人以上、家屋の流失、床上浸水など被害はひどい状況だった。通訳のハンさんを通じて「現地の人たちの意向に添った方法」で、この地方1番の被災地「フウアン・アン地区」のみなさんへ「救援物資」を贈ることになった。即席ラーメン・200箱、ノート・2000冊、ボールペン・400本、香辛料、味の素、醤油、タオル等。私たちは、現地で物資を購入し、テントやお寺で生活をしている64世帯を訪問。1人ひとりに手渡した。あの嬉しそうな顔は生涯忘れないことと思う。フエのテレビ局が取材にきて、その日の夕方に報道されると聞いたが、残念ながら見ることなく、次の予定地ホーチミン市へ旅立った。

貧富の差の克服が課題

ホーチミン市（旧サイゴン）の活気は凄い。ハノイが近郊農業の街なら、ホーチミン市は、近代工業の街と言えよう。私の勝手かもしれないが、同じ活気でも何となく違いを感じ、どっちかと言われれば、ホーチミン市の方が、日本人には親しみやすい労働者の街か？ 中心街のビン・タイ市場は驚きである。なんでもそろっていて、しかも安い。どうしてこの品々が民衆に届かないのか？「社会主義」とはいったいなんだろうか。人口約7600万人のベトナムは、貧富の差が拡大しつつあると聞く。ソ連崩壊後は「ベトナムこそ本物」と思っていたのに、「まだまだ先のことか」などと、いらぬ心配を。しかし、この国は発展すること間違いないと思うことしばし。肥沃な土地で2期作の有利を得て、世界に農産物を輸出。企業誘致で工業生産高もあなどれない。

青年の目に明るい未来が

また一方では、農村の貧困、都市の失業者も年々増大している。人口の8割を占める農民層の貧困は24.5%と言われている。こうした問題を政府がどうやって克服するかは、差し迫った課題に違いない。それはさておき、私たちの目に写ったベトナムは、青年たちの希望と苦悩をかかえながらも屈託のない明るい目であり、生きるための必死の目でもあった。

ホーチミン市労働組合と交流

ベトナム4日目の朝、12月13日にベトナム労働組合総同盟傘下のホーチミン市労働組合を訪問。書記長のグエン・ホイ・チャンさんが出迎えてくれた。ここでは約1時間30分交流をした。懇談の中で、「ベトナムでの緊急課題は労働者の技術養成と失業問題の解決だ」とチャンさんは語気を強めて言った。賃金問題では「男女間の格差はほとんど無い」ことや水準では外国系の企業が月75米ドル、次が国営企業の月70米ドル、民間企業が50米ドルと三つのレベルに大別できること。企業は国営・民間・他国との合併という三つのタイプがあり、数は3000、そのうち3分の1が国営企業で、全体の70%に労働組合があることなどが語られた。また、ベトナムでは、職場でも家でも女性の役割が非常に高く、組合でもサークル活動でも活発に活動している。日本の企業もベトナムに進出している。

「日本の労働組合に何を期待するのか」との私たちの質問には、「労使間が悪くならないように、日本の社長に話しをしてほしい」との返答。さらに「ストはやるのか」との質問に「工場に広がると困るので禁止している」とのことだった。平和問題では、ベトナムは「非侵略の国」であり、国民みんなが「平和のことをいつも考えている」と自慢していた。



ホーチミン市労働組合との交流・懇談の席で代表して挨拶する伊豆原さん（右2人目から）。

独立・南北統一してからわずか25年。それ以前ベトナムは、フランス、日本、アメリカなど列強の植民地。国民の意思とは反対の分割統治、さらには独立戦争と「たたかひの連続」だった。ようやく他国に邪魔されず自分たちの手で国づくり・発展をとげようとしている。街ゆく人たちの明るい笑顔。たくましさを感じさせる若者。都市と農村とのギャップをどれだけ早く穴埋めできるのか。おなじ同胞として見守っていきたいと思った。

<ベトナム・ツアー 伊豆原団長あいさつ>

その①＝(12月12日) ー水害被災地「トゥアン・アン」地区でー

CHAU CAC BAN(みなさん、こんにちは)

RAT VUI DUOC GAP BAN(はじめてお目にかかります)

私たちは、愛知県労働組合総連合(略称、愛労連)といいます。組合結成10周年を記念してベトナム・ツアーを企画しました。

TOI LA IZUHARA(わたしは、いずはらです)

愛労連の副議長です。また、今回の訪問団の団長です。訪問団を結成する少し前、日本の新聞で私たちの訪問予定である、フエ市が洪水のため大変な状況であることを知りました。私たちの愛労連議長、阿部精六が心を痛み、幹事会を開き「少しではあるが、水害の見舞金として、フエ市に届けて市民の皆さんの災害復興に役立てて欲しい」「具体的には現地で相談をせよ」と私たちに見舞金を託しました。

ここにいる通訳の「ハンさん」とフーン・ザン・ホテルの副支配人「フンさん」たちのお力を得て、少しですがここに救援物資を持ってきました。阿部議長をはじめ、愛労連の組合員を代表してお渡しします。

復興には今後、大変なご苦労があると思われますが、がんばってください。

私たちは、皆さん方がこの災害復興という、難問かつ緊急の課題を必ず、克服するということを信じています。

あきらめずにがんばってください。以上です・

その②＝(12月13日) ーホーチミン市労働組合との交流でー

CHAU CAC BAN

RAT VUI DUOC GAP BAN

本日は私たちのために、時間をさいて頂きまして、ありがとうございます。心からお礼を申し上げます。私たちは、愛知県労働組合総連合(略称・愛労連)といいます。

TOI LA IZUHARA

今回の交流団の団長です。組合結成10周年を記念してベトナム訪問を計画しました。

メンバーリストは事前にお渡ししました。16名と書きましたが15名に変更しております。正式なリストを今、お渡ししますのでよろしくお願いします。私をはじめ、副議長が4人と書記長および書記次長が参加しています。

さて今回の交流の目的にかかわる質問事項はあとで書記長から述べますので、私からベトナムを訪問した若干の趣旨を述べてあいさつとします。

私たち愛労連の組織は、公務員組合が70%、民間組合が30%と組織的には少し偏ったところがあります。現在の私たちの組合が直面している闘争課題や愛知県内の特徴は事前の文書で簡潔に述べていますが、何と言っても史上最悪の失業問題です。日本の企業は大リストラをすすめ、政府がこれを後押しすることによって、失業者320万人、失業率4.9%という状況になっています。労働者の雇用の確保をすること。また不況から県民のくらしを守る。これが一番の課題です。

このベトナムにも日本の企業が多く進出しています。その企業で働くベトナム労働者の労働条件や賃金などは、どのような実態なのか、日々のくらしや生活実態を調査したい。これが目的です。

私たちは、9日と10日の2日間、ハノイ市内を見学。市場など市民のくらしの状況を見てきました。11日と12日はフエ市にいき、昨日の夜ホーチミン市にきました。

フエでは、11月2日の大洪水で大きな被害がでたことを日本のテレビ、新聞で知りました。わずかではありましたが、「物資を調達」し昨日、フーン・アン地区の被災者を訪問して手渡しすることができました。さらに、12月8日にはクアン・ガイ市も洪水で被害にあわれたと聞いています。これについては、ベトナムのみなさんが1日も早く災害を克服し、通常の市民生活ができることを強く念願しております。

おわりに、私たちは明日日本へ帰りますが本日の交流記念として、少しのお土産と愛労連の「10年の歩み」という小冊子および全労連の「10年の写真集」を持ってきました(じつは日本語版しか作っていないので、申し訳ありませんが通訳で読んでください)。ホーチミン市労働組合にお渡しします。ありがとうございました。

写真は正直！ スナップで綴る感動？のベトナム

飲み続け、食べ続けた6日間、戦跡に、交流に、活気に一驚き、感動、連帯の6日間

＜内容は、もっぱら筆者・伊藤むつをの記憶(2000.8.31～作成なのでアテにならないが)と独断による＞

●12月9日(木)

① いざ、ベトナムへ出発。

キャセイ航空のエアバスで、9:50 名古屋を出発、香港国際空港で乗り換えて 16:05 ハノイに到着。→ (日本とベトナムの時差は、2 時間)



＜ベトナムへの第一歩＞
ハノイ国際空港で、ハイ！ポーズ



＜ホテルのロビーにて＞
我こそは「デブ・ラー」と、
女性陣、にっこのポーズ。

Hanoi Hotel(河内大酒店)に荷をといて早速に夕食へ。ベトナム(ハノイ)料理店＝レストラン・パラダイスでは、琵琶・16弦琴・胡弓の伴奏つき＝日本人観光客むけの(北国の春、さくらさくら、荒城の月、赤とんぼ、上を向いて歩こう)サービス。「お金持ちの日本人、チップ配ってお満悦」てな姿もチラ・ホラ。

② 約10時間(香港での乗り継ぎ時間含めて)余のフライトにも疲れなし？

夕食のあと、さっそくホテル界隈の街(屋台)へ夜の散策。民衆の食事(そうめんの様なベトナムうどん)にもさっそく舌鼓。単価は、6000ドン＝約60円。ドラエモンのポケットブック(ベトナム語版)＝3000ドンも物珍しさか、何人もの購入。



ベトナム料理にご満悦？ ビールを
並べて、すっかりご機嫌のお二人。

夜の街にガオー！ 早速
摘み食い。底なしの胃袋



●12月10日(金)

① 僕の感じた、「ハノイ」ってこんな街。

リ(李)朝の1010年に首都となって以来、1000年(19世紀になってグエン(阮)朝が政権を握ると首都は中部のフエに移されたが…)に及ぶ悠久のときを刻んできた古都ハノイは、ベトナムの政治・行政の中心地。急速な経済発展に沸くホーチミンのような華やかさはないが、豊かな緑や湖に彩られ、さわやかな印象。

古い寺や廟、フランス風の洋館が建ち並ぶ街並みは、インドシナ戦争やベトナム戦争時に、北ベトナム政府の拠点となって過酷な戦争を経験した街と思えないほど、しっとりとした風情をたたえている。

② 見るもの、聴くもの ホーチミン（胡志明）！

6:00起床、歩道を埋めつくす「朝市」へ。朝食前だったが、朝もぎのトマトや、ちっちゃなモンキーバナナ、こわ飯、豆腐(甘いダシをかけて)、パン、とうもろこしと、つまみ食い。

→ 土井さん、朝の散歩で迷子に。バイクタクシーでホテルまで＝運賃は1万ドン。

9:00市内見学へ出発。さっそくバー・ディン広場へ。1945年9月2日、ホーチミンが独立宣言を読み上げた場所として知られている。広場に面したホー・チ・ミン廟の左右には「ベトナム共和国万歳」「ホーチミン主席が我々のこれからの事業にも生きている」の大看板。

ディエン・ビエン・フーから持ってきた満開のバンの花(赤紫)の横を通って、ホーおじさんの家(1958～69)へ。執務室に寝室、食堂があるだけの小さな2階屋(＝家の西側に北爆に備えた地下室)。家の前には「ホーおじさんの池」。果物(ザボン)を植える運動と、養魚池運動の2つ。暮らしUP！へホーチミンの呼びかけで全国へ波及。

ホーチミン博物館は、休館日。記念撮影だけで、蓮の花の浮かぶ池に建つ一柱寺へ。



バー・ディン広場（独立記念日には、祝典やパレードがおこなわれる）／建物はホー・チ・ミン廟（厳粛に記念撮影）



ホーおじさんの家の前でパチリ！

大きな蓮の花のような一柱寺



ホーチミン博物館前の集合写真

③ 目で、心で見た、博物館・市場・水上人形劇

お昼のレストランは、一弦琴や四角ギター、竹琴（穴あき・手たたき／シロホン式）、カエル（木魚のような楽器）の演奏に大はしゃぎ。楽器のミニチュアをさっそくお土産に。

午後は、軍事博物館や歴史博物館、ホアン・キエム湖（環剣湖／市街中心部にあるハノイのシンボル）、湖岸と赤い木橋でつながる玉山祠（文武両道の神々をまつる神社）、湖の北・旧市街の中心部にあるドン・スアン市場（ハノイ最大の市場）などを見学。

市場には、肉、魚介類、野菜、果物、スパイスといった食材から、工芸品、衣料、履き物、漢方薬、雑貨、音楽テープ、さらに小鳥やイヌ、ネコ、ヘビといった小動物まで、ありとあら



豊かな食材が並ぶ朝市のスナップ
墜落したB52の破片クズの山



ゆる商品が並んでいる。この界隈で見崎、平田、伊藤が「ベスト」を購入＝約16万ドン。

ピアノ・バーで夕食後、またもホアン・キエム湖畔に戻り、伝統芸能の水上人形劇を見学（＝人形はサオと呼ばれる長い竹の棒や糸などで操る。棒や糸は水中にあるので観客からは見えない。人形使いはステージの後ろ、幕の後ろに隠れて胸まで水につかりながら操る）。



●12月11日(土)

① 水害の復旧作業に働く、ベトナム人民の明るさに感動。でも「労働安全意識」は？

ツアー最大の強行軍。早朝5時起床、6時にはホテルを出発。ハノイから空路ダナン（フエの空港へは、水害の影響で降りられなかった）へ。

ダナンから目的地・DMZ（＝Demilitarised Zone／非武装地帯）へバスに乗り込みまっしぐら。ところどころ舗装が途切れ、油断をすると座席から放り出されるスリル満点のおまけ付き。昼食もサンドイッチを積み込み、ただ一本の縦断道路1号線をひた走った。

フエの空港に降りられなかったのと、ニャン運転手のおかげ？で、行けども行けども農村地帯のなかで水田はもちろん、水牛やあひるの放し飼いに目にかかったり、峠越えでは水害の復旧作業半ばの崖っぷちの道や仮設の橋を渡る幸運にも恵まれました。

途中、立ち寄ったのは、トイレと昼食休憩のほかは、戦争の跡を残す銃痕も生々しい壊れた教会とホーチミン・ルート工作隊の墓地（1959年5月19日からの道路づくりで14,000人が亡くなったという）。墓地の慰霊碑には「祖国は君たちの恩を決して忘れない」と刻んであった。

北緯17度線付近を流れるベン・ハイ川に架かる古びたヒエン・ルーン橋（1967年までは北半分が赤、南半分が黄色に塗られ国家分断の象徴となっていたが、米軍機の爆撃で崩壊。1973年に再建）のたもとで記念撮影、早速にホテル（フエのHuong Giang Hotel／フーン川沿いの老舗の国営ホテル）へ向かってGO！



ベン・ハイ川／ヒエン・ルーン橋の袂で



ホーチミン・ルート工作隊の墓地で、会館の職員＝墓守の人たちと一緒に。



銃痕も生々しい教会跡で



② DMZとは？

ベトナムでは、南北分裂が決定した（ジュネーブ協定）1954年から、ベトナム戦争が終結する1975年まで、北緯17度線付近を流れるベン・ハイ川沿いに軍事境界線が引かれていた。その境界線に沿って、東は南シナ海を臨む海岸から西はラオスとの国境まで、幅10km、全長約60kmに渡って設けられた非武装地帯のこと。

●12月12日(日)

① 喜びの笑顔で迎えられたフエの水害見舞 - 状況判断の甘さが生んだ功罪には反省。

ベトナム4日目、この旅の目的の一つであったフエの水害見舞へ。(詳細は、伊豆原団長の報告・被災地での挨拶、多くの参加者の感想など)に譲るが、通訳のハンさんやフーン・ザン・ホテルの副支配人フン(=この女性副支配人は、ベトナム労働党の元国際部長とか)さんの協力で、カンパとして持参した10万円(1300万ドン)をインスタントラーメンや文房具など生活必需品に変えて、被災家族ごとにツアーの参加者一人ひとりから手渡すことができた。本当に心から喜んでくれる笑顔は、大きな感動を覚えさせた。

残念だったのは、大きな被害をだしたエビの養殖池の中を通る道路沿いの家(ご主人が洪水で溺れる人を何人も助ける行為のなかで死亡)を訪れたときに、その周りの人たちにカンパの残り300万ドンを現金(1人5万ドン)で配ることとなり、結果として大きな混乱をつくりだした。低所得者層の1ヶ月の賃金にも相当する金額を見せびらかす結果となったのは、水害で16,000人(内公務員1,600人)もの失業者が生まれ、苦しい生活が続いているなかでいかにも軽率だったと反省。



② 少し心残り、時間切れのフエ

11:00~12:30までフエ宮殿美術館を見学。フエの残念Part 2は、阮朝王宮のみで時間いっぱいとなったこと。1802年~1945年まで、13代にわたって阮朝の都が置かれたフエは、世界文化遺産にも指定されている。また、ここにもホーチミン博物館があるが、ホーチミンが一時過ごしていた街でもある。できることなら郊外に点在する歴代の帝廟も巡ってみたかったし、緩やかなフーン川の流れを眺め、心を安らげ、ゆったりとした時間を過ごしたかった。などと柄にもないことを思ったりするのも、フエの魅力だろう。

昼食に入ったレストランは、午前中、動き回ったのと、少し昼食時間が遅かったこともあるのか、個人的にはベトナム滞在一番の旨さ。バナナの葉に包んだ平たいシューマイやスープは 本当に美味しかった。

王室から運ばれてきた美術品や皇族の愛用品が展示されている、フエ宮殿美術館の前で。



③ 正しいかな? 「郷に入れば、郷に従え」ーベトナムは酒より、ビールの似合う国

14時過ぎ、こぬか雨の古都（フエ）をダナン（空港）へ向け出発。ハイ・ヴァン峠の手前でトイレ休憩。物を売る少年、バスのボディーや窓をたたいて何かくれと声をかける子どもたちにいつもかかわっていたのは（優しい土井さん、香村さん?）

峠を越えてダナン。ベトナム航空で、19:30ダナン発 20:30ホーチミン着。空港からまっすぐ夕食のレストラン「日本料理・かすが／さが野との主張もあり」へ。久しぶりに日本酒を飲んだが、高かった。やっぱり地元のビール＝バーバーバー（333）やタイガーが断然安く、飲みなれば旨い。ホテルは、＝Sol Chancery Saigon／ソル チャンセリー サイゴン。

●12月13日（月）

① ホーチミン市労働組合と懇談

早朝の散歩、路上の店でベトナムうどん（＝6,000ドン）。

朝食のあと、前日、23:40という遅い時間から質問などのポイントをアレコレ相談していたホーチミン市労働組合との懇談（8:30～10:00）へ出発。団長のあいさつ、見崎事務局長からの質問要旨の説明、ホーチミン市労働組合からの説明と。ざっと型どおりの交流のあと、参加者それぞれが、労働のこと、経済のこと、平和のことなど思い思いに質問。和やかな雰囲気での交流となり、愛労連10周年記念の国際交流としての役割の一端は担えたのでは。アジアの労働・経済状況を知る仲間ができたというのは少し言い過ぎか。→（団長あいさつもご覧下さい）



ホーチミン市労働組合の会館
前で書記長さんたちも一緒に。
懇談に出席下さった委員長さん
始め組合役員の方々。



② 持って帰れるのかと心配した、買い物ツアー

交流のあと、おまかせ?のお土産ツアーに出発。案内されたのは百貨店のようなお店。お茶や薬などの日用品から、ハンドクラフトのジュエリーショップ、ブティック、ナイキショップ、香木やベトナムの伝統工芸品などのお店まで、はては税関流れかと思われるようなブランド?物の時計やバックまで揃っている。さっそくに品定め、アレコレと買い込む人（デッカイ置物も）、アオザイの店員さんの側に近づく（危険な人物?）、店内のテーブルに座り込んで、まず一服、どうやって持って帰るのかと心配するほど買い込むリッチマンなどさまざま。

統一会堂（旧大統領官邸）や戦争証跡博物館のあと立ち寄ったビン・タイ市場（チョ・ロンのメイン・マーケット＝20世紀初めにチョ・ロンの有力華僑であったカク・ダムによって造られた）は回廊式になっており、1階は台所用品や靴・衣料などの日用品を扱い、2階は化粧品など雑貨が売られている。食料品売り場は建物の横。市場の前には買い物客のバイクがビッシリ、駐車場係のお兄さんたちのバイクの出し入れは神業、いつまで見ていても飽きない。

ここでも「安い、安い」と買い出しに走り回る。ナイキの靴を何足も買い込む「ムカデの仲間」かと思う人もいたような気が。→ツアーのバスについて回り、ナイキのシャツを「6枚シェンエン、6枚シェンエン」と叫ぶ子どもから、つい買ってしまったおっちょこちょいも。

買い物の合間にチョットー服



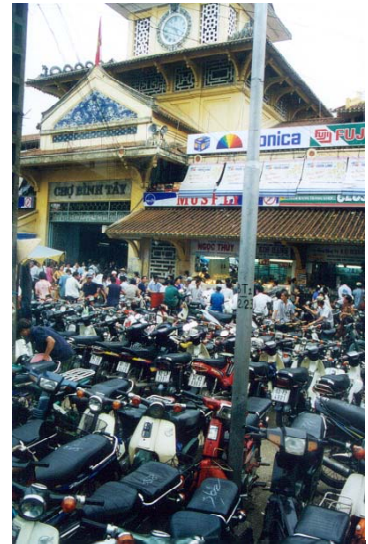
これ、私に似合うかな



おっ！出っ張った腹、アオザイ娘に接近



街中を走り回るバイクやシクロ／ビン・タイ市場前のバイクの海



③ 足も竦んだ！ 再現した捕虜収容所や、枯葉剤による奇形胎児のホルマリン漬け

1975年4月30日、サイゴン陥落の日、正面ゲートから北ベトナム軍（解放軍）の戦車が乗り込んだ統一会堂（旧大統領官邸）や歴史博物館、戦争証跡博物館を見学。

旧大統領官邸は、専用のヘリポートはもちろん、映画館、ダンスホール、カラオケまで完備、大小100以上の部屋がある豪華な屋敷。上階は大統領家族の居住スペースだったが、地下は秘密の軍事施設だった。現在は、国賓を迎えたり、会議に使用されるとき以外は一般に公開。

戦争証跡博物館（かつてはアメリカの情報サービス・ビル）は、もともとはアメリカと中国による戦争犯罪の展示館という名前だったことが示すように、1960年代末～1970年代初めにかけて行われたアメリカ軍による残虐行為だけでなく、1979年に北ベトナムで行われた中国との戦争についても触れている。枯葉剤の影響で奇形に生まれた胎児のホルマリン漬けやソン・ミー大虐殺（1968年3月16日）に関するものなどショッキングな館内の展示物のほか、中庭には、実際に戦争で使用された本物の爆弾、戦車、ヘリコプター、戦闘機などが置かれている。

しかし、別棟でのベトナム民族歌舞踊ショーや、アメリカ兵の残したジップライター、米軍の砲撃や武器などの残骸で作った品々のみやげ物店があったりと観光地化も進んでいる。

アメリカ軍が使った人殺しの道具、犯罪の数々を展示



旧大統領官邸屋上の専用ヘリポート

官邸の門を破った解放軍1番のりの戦車と（同型戦車）



ベトナム最後の夜は、みんなで揃って「夜の街観光」。ブラブラと、あちらこちらを覗き込みながら散歩。路上の露店で飲んだ、丸ごと冷やしたココナツ椰子のジュースは美味！夕食でたっぷり飲んだ、この期に及んでも、（バーバーバー）と叫ぶ一団がいたことも付け加える。

ベトナム歴史年表

前111年	前漢がベトナム(南越国)北部を占領。交趾、九真、日南の3郡を置く	1911年	中国で辛亥革命、清朝崩壊
40年	ハイ・バー・チュン(徴妹)蜂起	1912年	反仏秘密結社ベトナム光復会結成
192年	中部の沿岸地方にチャンパ王国建国(首都ミー・ソン)	1930年	2月3日ホー・チ・ミン(胡志明)によってベトナム共産党結成 10月党の名称をインドシナ共産党とする
938年	ゴ・クエン(呉權)が南漢軍を破り1000年に及んだ中国支配から脱する	1935年	インドシナ共産党第1回党大会開催
966年	丁部領、ディン(丁)朝を建国	1940年	日本軍、仏印進駐(～1945年8月)
980年	前レ(黎)朝成立(～1009年)	1941年	インドシナ共産党がベトナム独立同盟(ベト・ミン)を結成
1009年	リー・タイ・トー(李太祖)即位。リ(李)朝創始(首都タン・ロン＝昇龍、現在のハノイ)	1945年	8月ベト・ミンの蜂起が全土に拡大(ベトナム8月革命) 9月2日ホー・チ・ミンがハノイでベトナム民主共和国の独立を宣言
1054年	国名ダイベト(大越)となる	1946年	12月第一次インドシナ戦争勃発(～1954年)
1075年	宋軍の侵攻	1949年	サイゴンに親仏のベトナム国政府成立(元首バオ・ダイ)
1076年	リー・トゥーン・キエット(李常傑)宋軍を破る	1950年	アメリカがサイゴンに軍事援助顧問団を設置
1225年	チャン(陳)朝成立(～1440年)	1951年	2月の共産党第2回党大会で、ベトナム労働党と改称
1258年	3度にわたる元軍の侵攻始まる(～1287年)	1954年	5月ベト・ミン軍がディエン・ビエン・フーで仏軍を敗退させる 7月ジュネーブ協定締結(北緯17度線を軍事境界線とする)
1407年	明朝による支配始まる(～1427年)	1955年	南部にベトナム共和国成立(大統領ゴ・ディン・ジエム)
1428年	レ・ロイ(黎利)、明軍を破り後黎朝を創始	1960年	南ベトナム民族解放戦線結成
1471年	後黎朝の聖宗、チャンパの首都ヴィジャヤを陥落させる	1963年	ゴ・ディン・ジエム大統領暗殺
1527年	内乱の鎮圧にあたってマック・ダン・ズン(莫登庸)が帝位を奪う(莫朝。～1592年)	1964年	トン・キン湾事件、米軍が北爆開始。ベトナム戦争激化
17～18世紀	ハノイ(河内)中心のチン(鄭)氏とフエ(順化)中心のグエン(阮)氏によって、南北対立時代が続く	1968年	1月テト(ベトナムの旧正月)攻勢5月第1回パリ会談
1771年	グエン・フエ(阮恵)らのタイソン(西山)党蜂起(史上最大規模の農民運動)	1969年	6月南ベトナム、臨時革命政府樹立 9月2日ホー・チ・ミン大統領死去 11月ソン・ミー村虐殺事件
1789年	フエとハノイを攻略した西山党は、鄭氏と結んだ清軍を撃退。黎朝滅亡	1970年	米軍とサイゴン政権軍がカンボジアに侵攻
1802年	グエン・フック・アイン(阮福映)西山運動を制圧し、阮朝を創建	1973年	1月パリ協定(ベトナム和平協定)調印
1804年	阮福映、国号をベトナム(越南)と改める	1975年	3月米軍撤退
1806年	阮福映、ザー・ロン(嘉隆)帝となり、首都をハノイからフエに移す	1976年	4月30日サイゴン陥落 6月ベトナム社会主義共和国樹立。南北統一
1820年	ミン・マン(明命)帝の統治(～1840年)、阮朝の最盛期	1978年	12月カンボジア侵攻
1833年	明命帝、キリスト教禁止令を布告	1979年	2月中越戦争
1841年	ティエウ・チ(紹治)帝の統治(～1847年)	1980年	ドイ・モイ(対外開放)の試行開始
1848年	トゥ・ドゥック(嗣徳)帝の統治(～1883年)	1986年	12月第6回党大会で、グエン・ヴァン・リン書記長は、市場経済化とドイ・モイを決定
1858年	フランス軍艦、ダー・ナンを砲撃	1988年	新外国投資法制定
1862年	第一次サイゴン条約(南部の3省を割譲)	1989年	9月カンボジアから完全撤退
1874年	第二次サイゴン条約(北部と中部にフランスの“保護権”確立)	1991年	6月第7回党大会。ド・ムオイ書記長
1883年	第一次フエ条約	1992年	4月「1992年憲法」公布
1884年	第二次フエ条約(ベトナム全土がフランスの植民地化)	1994年	米、対越経済制裁解除
1884年	ベトナム領有をめぐる清仏戦争勃発	1995年	4月南部解放20周年記念式典開催 7月ASEAN加盟 8月米越国交樹立 9月建国50周年記念式典開催
1885年	天津条約(フランスの覇権確立)	1996年	7月第8回党大会開催
1887年	仏領インドシナ連邦成立		
1904年	ファン・ボイ・チャウ(潘佩珠)維新会を結成。東遊運動開始(日本への留学運動。～1908年)		